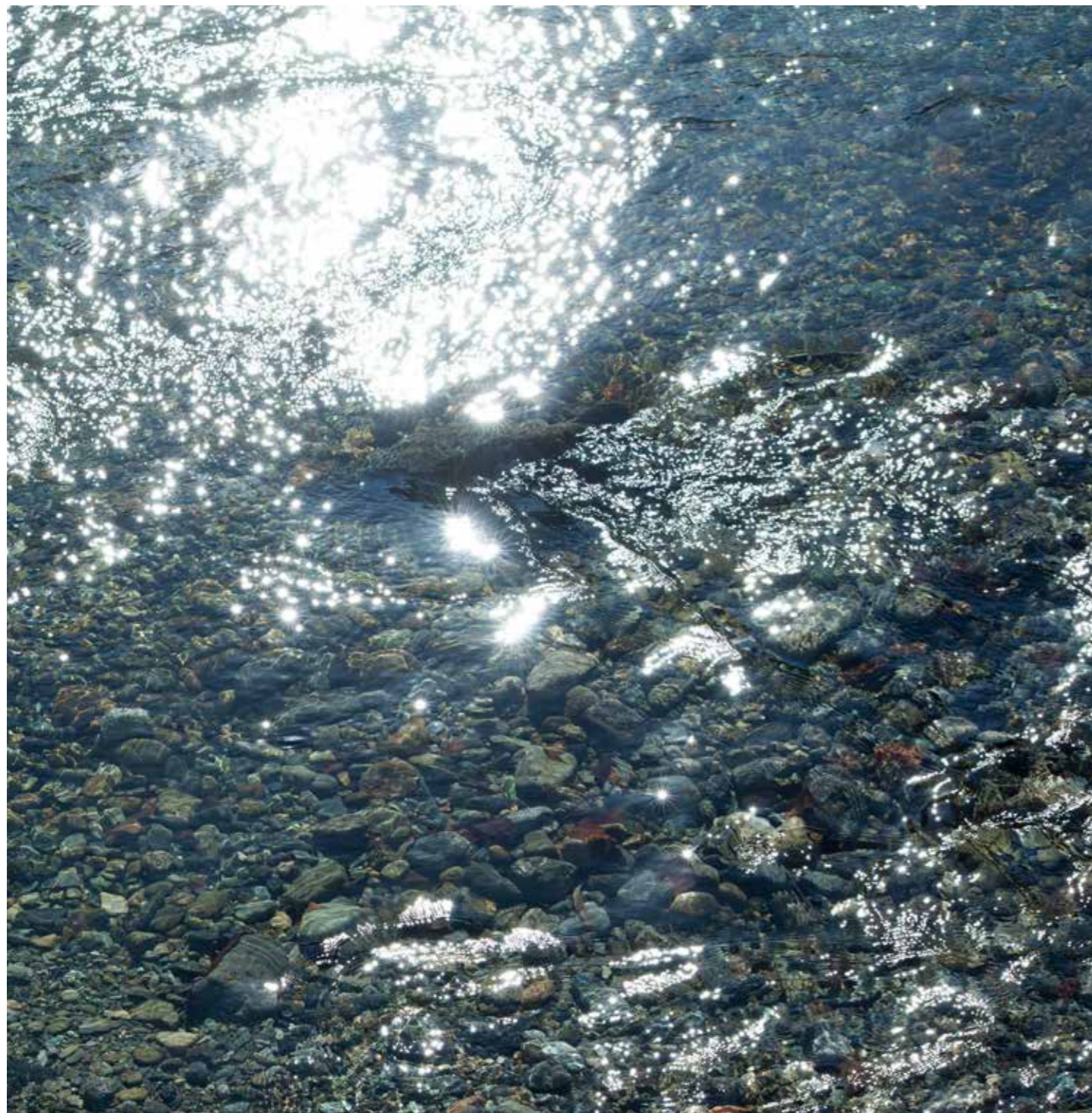


Local Life

ますます自由に、
フレキシブルになる
生き方・暮らし方。

Vol. **3**
in Nara **Okuyamato**



奈良・奥大和とは？

奈良県南部東部に広がる自然豊かなエリア。
広い面積を占め、市町村によって個性もさまざま。
一度、ふらりと出かけてみれば、
お気に入りの場所が見つかるかもしれません。



発行元・問合せ：奥大和移住・定住連携協議会（事務局：奈良県移住・交流推進室 ☎0744-48-3016）

Local Life
in Nara Okuyamato

※このパンフレットは2015年11・12月に取材をおこない、2016年3月に発行したものです。情報は変更となる場合がございますので、最新の情報や詳細については各施設へお問合せください。

全国の移住や地域おこしの拠点と交流があったり、海外からゲストが来たりと、どこにいても世界とつながれることを実証している



①水がキレイな東吉野村。丹生川上神社の近く、高見川の合流点は「夢淵」と呼ばれ、神武天皇の神話が残るなど、各所に歴史の面影も ②フリーランスで仕事をしている人にとって、コーヒースタンドが息抜きに ③新旧をうまく組み合わせつつ、築70年の民家をリノベーション ④⑤地元の家具工房にオーダーした櫛の一枚板のテーブルには、ロンドンのデザイナーズチェアTip Tonを合わせてアイキャッチに。壁にはデザイナー本人の直筆メッセージが ⑥菅野さんが廃材を利用して作る積み木などの小物も



型にはめると面白くない。原点はワクワクするか否か。

奈良県東大和エリアの中でも、観光地化されていない素朴さが魅力の東吉野村。この小さな村に、スタイリッシュなシェアオフィスが誕生したというニュースは、多くのメディアに取り上げられ、来訪者は7カ月でのべ1100人を突破するに至った。村による若者定住施策の一環で誕生した拠点だが、発起人は、9年前から東吉野に移住していたデザイナーの坂本さん。建物のアートディレクションを手がけ、オープン後は、友人であり同じく移住者である菅野さん(次頁)と共同管理・運営にあたっている。ここを訪れた人のうち3組が既に移住を決めるなど、順調に人を集めるオフィスキャンブ。その成功の秘訣は、坂本さんのフラットな視点にあるようだ。

Q 地域おこしの成功事例として注目されていますが、うまくいく

オフィスキャンブ 東吉野 OFFICE CAMP HIGASHIYOSHINO



古民家を改修したシェアオフィス&コーヒースタンド。移住を考えている人が気軽に立ち寄って交流したり、地方で働く体験もできるスペースとして2015年4月にオープン。 ☎0746-48-9005 西吉野郡東吉野村小川610-2 営業10時~17時 囲火・水 施設利用料:1日1人500円 ※定員10名 圏近鉄榛原駅より約18km 回 有 ※冬季休業あり

【施設概要】 設備: Wi-Fi/プリンタ複合機 1F 打合せ室(8席)/和室(4.5畳)/キッチン(調理器具及び 食器)/トイレ/お風呂/展示室/コーヒースタンド 2F 和室(6畳)×2/和室(8畳)/トイレ



Profile 坂本大祐さん 大阪府出身。デザイナー。ハードワークで体を壊したことで、両親が先に移住していた東吉野村へ。東大和エリアのデザインやプロデュースの仕事も多く手がけている。

Q 坂本さんは移住されて長いですが、村の暮らしはどうですか? 今も仲間も増え、もはや都会より劣っているところはないですね。よく田舎は閉鎖的と言われますが、逆なんです。都会では自分のテリトリーが家の中だけですが、田舎ではそれが拡大しているので、他人に干渉しているように見えるだけ。圧倒的に都会の方が、意識が閉じている状態です。日本全国、田舎にもキャバがあるの、移住を考えているなら早く動いて、コミュニティを作った方がいいと思います。

自信はあったのですか? 何も特別なことはしていません。僕の場合は「デザインだけじゃなく、プロジェクトの最初から関わることができる」ことが面白くて。移住者が増えていることに関しても、皆が来たら面白いだろうなと思っていたら、結果的にこうなったという感じです。未来のことはわからないからこそ、一瞬一瞬ワクワクできるのだと思います。

Q 村の施設となると、デザイン性の高いものは受け入れられにくいケースも多いですが。 オフィスキャンブという名前にも込めたコンセプトはMIX。仕事と遊び、都会と田舎など、端と端が混ざるイメージを可視化しました。古民家らしい空間を想像していた村長とは何度かぶつかりましたが、最終的には認めていただいて。田舎らしいところは他にいくらでもあふれています。ここは都会から来る人を対象にしているし、地元の人に対して、敬意は払っても過度に

面白いヒトやコトが、都市から地方へシフト。

「田舎暮らし」に対する価値観が変わり、今の若者たちにとって、それはライフプランのひとつの選択肢になってきている。都市でしかできないことが少なくなるにつれ、田舎でできることの可能性に気づく人々。奈良県東吉野村にも、自然な流れで移住者たちが徐々に集まり、新しい暮らし方や働き方を作り出している。

遠慮する必要はないと思います。同じ住民だし、自然体が一番です。

環境の変化から生まれるもの。

坂本さん(前頁)の友人で、東吉野に遊びに来るうちに移住を決めた菅野さん。村に暮らし始めて3年が過ぎ、少しずつライフスタイルに変化が起きているよう。おのずと本質に近づいているのは、自然の中で感性を開いているからだろう。



吉野町の和紙職人・植さんと作ったコースター。職人とのデザイナーをつなぐことも

Q まずは、村の暮らしについて。住み心地はいかがですか？

暮らしの質は上がりましたね。いきなりガラッと変わったというより、環境を変えたことで徐々に周りに近づいていく自分がいて。大阪や東京へ出張していくと、車やビル、看板広告など情報量が多いからでしょうか、疲れるようになりました。毎日、川のせせらぎを聞きながら寝られる環境は何にも代えがたいですね。

Q プロダクトデザイナーである菅野さんですが、仕事の面でも変化はありましたか？

以前は、机の上でデザインすることが多かったのですが、こちらに来てからは、ゆったりとした暮らしの中で、ものづくりの現場に向きデザインを行うようになりました。飯を食い、酒を呑み、湯につかり、クライアントとの人間関係を深めていく中で出てくる

Q 地方で1人で仕事をするのに、問題はなかったですか？

全国に150店舗ほど販路を持つのですが、これまで、商品の組み立てや検品受発注、発送作業を全て1人で行ってました。商品が売れば売れるほど事務作業に手を取られデザインする時間がなくなる。これは僕のように小規模で商品を作っている人の悩みでもありました。しかし、村に移住してすぐに県内の福祉作業所を紹介してもらい、自分が1人でやってたそれらの業務を障がい者の仕事として委託できるシステムを1年かけて作りました。今、このシステムを複数のクリエイターと共有しようと考えています。ですから、都会にいたときより1人で仕事をしている感覚はありません。地方に住んでいるからこそ出会えた人たちと共に仕事自体を作り出しています。

Q 人のつながりで仕事が行っている感じがしますね。村内で木工所をされている樹井さんとも交流が深いとか。

樹井さんとは、オフィスキャンプができてからよく会うようになっています。今では木工所を使わせてもらったりしています。木工商品の仕事の相談をすると、村内の建材屋さんには顔をつないでくれたり、樹井さんの持っている工具を使わせてくれたり。聞いたら何でも解決してくれる頼れる人です。先日、尼崎に住んでいる木工職人が作業できる木工所を探していたので紹介したところ、月1・2回、週末に通って来ています。最近ではそんなふうにも、外の人や物を村内の人や物とマッチングすることが多いですね。

Q 他にどんな例がありますか？

加古川で山と人をつなぐ活動をしている、ランバージャックスという集団があるのですが、昨年の夏に彼らと呼び、副村長の山をお



菅野さんが作ったツールにもなるスタッキングシェルフ

借りして新割りとトークイベントを主催しました。イベントは盛況で20代〜40代の若者が一度に50人ほど集まりました。村内の人にとつて山は身近な存在ですが、今の若者にとつては木を切ることでつて身近ではないんです。地方の発展には、地方の資源を新たな視点から捉えられる人と、地元の人と交流することが大切で、これからのそんな機会を作っていけたらと思っています。

Q 最後に、奈良に移住を考えている方にコメントをお願いします。

どこで暮らすかより誰と暮らすかが重要です。どの地方でも同じような環境は手に入ります。では何が違うかっていうと、一緒に暮らす「人」ですよ。人も環境の一部ですから、どんな人と暮らしたいかが物件よりも大切だと思っています。興味のある人を訪ねて、ゆつくりと自分のペースで引き来するなどはじめは2地域居住で関係性を作るのがよいと思います。



東吉野で生まれ育ち、小川地区の前区長を務めるなど顔が広い樹井さんは、移住者と地元の人との橋渡しの存在

樹井さんの木工所にて。「人との関係を大事にすると本当にいいものが生まれる」と菅野さん



Profile

菅野大門さん
福島県出身。プロダクトデザイナー。長男誕生をきっかけに、事務所兼ショップのあった大阪から東吉野村へ。空き家バンクで見つけた一軒家に家族で暮らす。



菅野さんと青木さん(左・次頁)。2人とも常識にとられない発想の持ち主

研究の本来の目的、考える余地を求めて。

この4月から東吉野で新生活をスタートする青木さん。奥様が都会で体調を崩したことをきっかけに田舎暮らしを考え始め、オフィスキャンプに遊びに来るうち、メンバーと意気投合し移住が決定。「私自身も、都市から離れた場所での教育や人間のあり方を考え直してみたいと思っていたので」と新天地を見出した。青木さんのアカデミックな世界でのキャリアと地方との融合が、どのように成されるのが楽しみだ。

Q いわゆるキャリアアップの道を離れてみてどうですか？

心身ともに無理をしていたと感じます。周囲にも生真面目だからこそ生きづらい人が多かったように思うので、今まで都会にしかなかった「知の拠点」のようなものを、東吉野に作りたいですね。

Q 具体的な構想はありますか？

障がい者就労支援の仕事で新しい教育というものを考え、自宅ではまずマイクロライブラリー(個人図書館)を開きたいなど。また、「生きる」ことを多角的に考える研究所も構想中です。



司書である奥様と共に、自宅にパブリックスペースを作り、自らの蔵書を公開予定
川を渡り、木立を抜けると現れるロケーションを気に入って借りることにした一軒家

人とのつながりで東吉野に住むことに。

OFFICE CAMPがきっかけになった青木さんと、東吉野の古民家カフェ・月うさぎに通ううちに知り合いが増えたという森田さん。移住する時、まず現地に友達を作ることは、良いスタートを切る大きな手助けとなるはず。



東吉野に初めて来たのが2015年3月。家がまったのが7月。OFFICE CAMPのメンバーに色々相談できるのが心強いという

青木真兵さん
兵庫県→東吉野村
古代地中海研究者。大学講師や博物館学芸員などを経て、奥様と共に東吉野へ移住。2016年4月からは「社会福祉法人ぶるぼの」に勤務予定。



地域の行事に積極的に参加して、つながりを作るのも楽しいという

森田智さん・和代さん
大阪府→東吉野村
元エンジニアの智さんが、趣味のパン作りを突き詰め転職→移住に至る。仲間と助け合い、お金や物を循環させるコミュニティづくりに意欲的。
SHOP
●自然酵母 麦笑
2015年11月オープン。無農薬の生リンゴやブドウ、小麦だけを使い、温度、湿度管理をして起こした酵母で、パンを焼き上げる。
☎0746-42-0662
〒吉野郡東吉野村小716 9時〜17時(12〜3月は10時〜)※売り切れ次第終了、土日月のみ営業



ショップとイトインスペースがある母屋。納屋を改装した工房が併設されパンのいい香りが漂う

この日試作中だったのは、ワインに合うカンパニユ2種。上質な素材でヘルシーに仕上げ

自然酵母に欠かせない美しい水と空気。

茅葺屋根の面影が残る古民家を改修し、自然酵母パンの店を開いた森田さん夫妻。自然に酵母を育ててパンの道を究めたいと、環境の良い京都・奈良の山間部に移住先を探していたところ、東吉野の空き家に出会った。「もう少し街に近いほうが商売的に良いかと悩みましたが、月うさぎさん(カフェ)を通じて移住者の輪が広がるイメージが持てたことで勇気が出ました。仲間と協力して、自分たちらしい暮らしを創造している。

Q 家探しはどのようにされましたか？

不動産会社のサイトで探し、約1年かけて見て回りました。東吉野は、パン作りに大切な水の神様・丹生川上神社があることも決め手になりましたね。知り合いのついで別の空き家に仮住まいし、約8カ月かけてできるところは自分たちで改修しました。

Q 移住してよかったことは？

生活の中で何でも自分たちで作っていく感じは、大阪にはない楽しさですね。周りの方が声をかけてくださり助かっています。

導かれるようにして
天川村にやって来た。

震災の影響で移住した高木さんファミリー。まずは京都に拠点置き、約1年かけて定住する場所を探した。中国・九州地方までさまざまな場所を周った末、ふと天川村を訪れた時、この土地に惹かれ移住を決定。住み心地は、生活用水が山の天然水なので、お風呂まで気持ちいいと雅典さん。希さんは、やりたかった草木染めを思う存分できる環境に。「本当に引越して来てよかった」と素直に言葉にできるほど、この暮らしに満足しているようだ。

Q 天川村に移住を決めた時に家は見つかったのですか？

いえ、空き家バンクでは見つからず、2カ月かけて数回通い、現地で飲食店などを周って情報を集めました。すると人のご縁をいただくことができ、当初は家を貸すつもりがなかったこの大家さんが貸してくれることになりました。

Q 移住してから製作面で変化はありましたか？

街とは比べものにならないほど作業に集中できます。でも、田舎の方が忙しいというのは本当で、畑仕事、染物の植物採取や溪流釣り、行事やイベントも街より面白そうなのが多く、製作時間自体は減っているかも。

Q 大変だったことや困ったことはありますか？

子どもの急病の時くらいかな。買物物は主にネットで、たまに直売所などへ行けば不自由はないし、ご近所さんにもよくしていただきとても住みやすいです。

高木雅典さん・希さん・
玄真くん
▶東京都→天川村

東日本大震災を機に京都市を経て天川村へ。天然石とマクラメジュエリーのARTEMANO(アルテマノ)の仕入れ、デザイン、製作を手がける。



仕事があり、子どもがいるので周囲になじみやすかったと雅典さん

海外で買い付けた天然石と希さんが染めた糸で、美しく編み込んだジュエリーの数々。ARTEMANOのオンラインショップで購入できる



今、懐かしくて新しい
ライフスタイルへ。

地方へ移住する人が増えている背景には、東日本大震災の影響も少なくない。関東・東北圏から離れることを選ぶ人もいれば、暮らしを見直す機会になった人もいるだろう。自然と共に生きる暮らしは、古くから田舎で続いていたこと。今こそ、新しい感覚で戻る時がきています。

生きている実感が湧く、
そんな暮らしのために。

それぞれ海外滞在経験も豊富な中澤さん夫妻。そんな2人が理想とする生活のために行きついた先は、日本の田舎だった。共通する思いは、「ベーシックな暮らしを大切にしたい」。自家培養酵母でパンを作り、自分たちがそれを食べて、おいしいと思えるものをお客様にも提供する。生きることで体が仕事であるような、ささやかで豊かな暮らしを実践中だ。

中澤諒さん・星良さん
▶神奈川県→御杖村

2人ともヨガ教師であり、星良さんは母親の影響で幼少期より食の安全に興味を持ち、オーガニックレストランで働いていた経験も。

SHOP
フェルベレ
●FERVERE
オーガニックの素材を使い、自家培養酵母で焼き上げるパンと焼き菓子の店。自然のペースに寄り添って、ゆっくりと生まれる滋味深い味を楽しめる。
☎050-5275-3686
※現在準備中

移住を機に結婚した2人。物件を案内した役場の古谷さんに婚姻届の保証人をお願いしたそう



独学で毎日試行錯誤して身に着けたパン作り。全粒粉100%・水・天日塩とシンプルな材料なのに驚くほど味わいがある



ヨガクラスやワークショップなども計画中



Q 家探しはどのようにされましたか？

僕は震災当時、母と桜井市に移住した経験があり、今回も関西がいいなと。空き家バンクで探し、水のキレイな御杖村に決めました。

Q 星良さんは知らない土地で不安に思わなかったですか？

逆にワクワクします！自分たちで作れるものは畑で作ってきたいし、それが生きる喜びだなって思っています。

Q 奈良に移住を考えている方にコメントをお願いします。

田舎は人づきあいが大変などというネガティブな情報もありますが、全然そんなことはないです！「来てくれて嬉しい」という、都会にはない感覚には驚きましたし、感謝しています。奈良には面白い暮らしをしている人が多く、オーガニックの食材なども手に入りやすいように感じます。

昔の知恵が消えてしまわないように、石臼で挽いた小麦、ライ麦を取り入れる

ジュエリーのデザイン担当で色彩センス抜群の希さん。アカネやセイタカアワダチソウなどで染めた麻糸は、これほど豊かな色合いに



ジャマイカの楽器・ケテの音色が十津川村の風景にも不思議なじむ

Q 大島さんは奥様と離れて暮らすことになったんですよね。
大島 妻は自分の体を心配してくれていながらも、創作活動に専念したい自分の気持ちを理解してくれています。たまに様子を見に来ます。まあ、遠距離恋愛もいもんですよ(笑)。
Q この神納川工房はご自身で建てられたとか？
大島 大変やったけど、毎日楽しかったなあ。最初は理科室で作業していたんやけど、木屑がすごいので校庭に作業場を作らせてもらいました。作っている最中に見かねて村の色々な人が声をかけてくれて。途中で丸太を90本くれたり、外壁を貼ってくれたりして、やっと工房ができました。

「やりたいと思っていたことが全部かないそう」

Profile

鈴木大介さん
 愛知県出身。レゲエの神様ボブ・マーリーから影響を受け、食とライフスタイルを追究するために十津川村に移住。2016年1月からは役場の臨時職員の仕事も開始。



畑を借りている山天は景色の良い集落。次はここに住んでみたいと鈴木さん

4月に地面に線引くところから始まって、5カ月かかったけど、去年の今頃は病院で寝てたと思うと、夢のよう。
Q 創作活動に専念したいという思いを持たれていたのですか？
大島 それはもう20代の頃から。教師は生徒の力を引き出す仕事。だから、今やっと自分の力を引き出す番が回ってきたという感じ。十津川でやるならこの木を使った作品がいい

鈴木大介さん
 愛知県出身。レゲエの神様ボブ・マーリーから影響を受け、食とライフスタイルを追究するために十津川村に移住。2016年1月からは役場の臨時職員の仕事も開始。

Q では、大変だったこと、困ったことなどはありますか？
鈴木 音楽に関しては、ライブハウスもないしアーティストもいないので街のようにはいかなかったです。自分がここでクリエイティブしたいらいいんだと思っています。先ほど話に出た友達と神納川HBPのメンバー2人と一緒に「原木音楽団 ザ・十津川ブラザーズ」を組んで、秋の文化祭に出させてもらって。ここへ来て、やりたいと思っていたことが全部かないそう。それが面白いですね。
大島 台風の時、工房が飛んでしまっただけかと思つたよ。自然はすごい。後は…囲碁の相手がいないことくらいかな(笑)。移住してから定住まで何年もかかると思いますが、少しも村のためになんかできていると思えることが、住むためには一番大事やと思う。やらせてもらっているという気持ちを持たれたらアカンと思つているし、自分にできることは何でもやろうと思つているんです。



松の木目をいかしたカブトムシ型のケース

「ここは自然が大きいから力を入れずに創作できる」

Profile

大島教善さん
 大阪府出身。美術教師として活躍していたが、病に倒れたのを機に十津川村に移住。神納川工房を立ち上げ、地元の木材を使ったおもちゃ作りに取り組む。



朝6時から工房で作業し、夜8時には布団に入るという規則正しい生活。自宅にはテレビもラジオも置いていないそう



現在製作中の鹿の図面。大島さんが絵を、近所の方がチェンソーを担当

Q 移住を考えていたのですか？
鈴木 僕は小学生の頃から料理が好きで、専門学校へも行ったのですが、色々あって諦めていたんです。出身地の愛知県刈谷市は工業都市で、工場関係の仕事をしていけば将来は安定するという感じ

があつて。僕も工場や土木現場で働きながら好きなレゲエの音楽活動をして生活していたのですが、同じ時間のはずなのに、毎日ぐるぐる早い回転で流れていくことに息苦しさを感ずてしまつて。そこで、30歳を機に自分を振り返ると、やりたいことや大切なことがはつきりしてきたんです。20代の時、レゲエの本場ジャマイ

カに3カ月滞在して、敬愛するボブ・マーリーのメッセージやライフスタイルに触れました。そこから、自分のライフスタイルを見つめ直し、食を取り入れるようになっていた。このことを、もっと追求できる場所に移ろうと決め、今に至りますね。
Q 十津川村に実際に住まれてみ

ていかがですか？
大島 いい空気を吸って、いい水を飲んで、それで変な食べ物を食べないから、ここに住んで中性脂肪やコレステロールの数値が日に目によくなり、医者からもう来なくていいと言われました。そして

鈴木 フェスティバルですね。十津川なんぼと砂糖と安全なふくらまし粉で作っているの、子どもから大人まで安心して食べられます。僕は野菜をメインにしているの、毎日なんだかんだメニューを考えていて、日々挑戦つて感じ。いつか野菜レストランを開きたいなど。

最ディープエリア十津川村でクリエイティブに生きる男たち。

奥大和の中でも最も奥地にある十津川村。鉄道の駅や高速から遠く、移住するにはハードルが高いエリアだが、その分残されたものがある。2015年春、ちょうど同時期に移住してきた、大島さんと鈴木さんに、神納川地区の旧五百瀬小学校にて話を聞いた。



2人が暮らす十津川村神納川地区とは？

世界遺産「熊野参詣道・小辺路」が通る、山あいの5集落からなるエリア。地域おこし協議会「かんのがわHBP(Happy Bridge Project)」が、旧五百瀬小学校を拠点に活動しており、敷地内の旧校長住宅に大島さんが、旧職員住宅を改装したvilla かんのがわに鈴木さんが暮らす。HBPや村人との交流もさかんなのだそう。

て、なにより村の人たちが親切です。よく声をかけてくれます。
Q 好意的なんですか？
大島 そうです。親しみをもって接してくれます。特にこの神納川地区の人は一人ひとりが個性的でマイペースでのびのびしています。
鈴木 僕は十津川と神納川の魅力を感じられるようになったのは後からで、来るまでは、やりたいことができればどこでもよかったんです。でも来てみたら、人はいいし、空気もいいし、野菜もおいしいし、温泉は最高だし。しいたけの仕事も食に関わることなので楽しいし、今までの土木の経験が別の形でいかせることもまたうれしくて。山天(限界集落)のおばちゃんの手伝いでいたら、一角を借りられることになったりと、ありがたいことに、徐々に徐々に自分のスタートが切れています。
大島 大ちゃんが山天のとうもろこし(十津川なんぼ)で作ったジャマイカのお菓子、あれ旨かったなあ。
鈴木 フェスティバルですね。十津川なんぼと砂糖と安全なふくらまし粉で作っているの、子どもから大人まで安心して食べられます。僕は野菜をメインにしているの、毎日なんだかんだメニューを考えていて、日々挑戦つて感じ。いつか野菜レストランを開きたいなど。



川上村の特産品・割箸。後継者不足の解決につながる新展開も考えていきたいという

Q 移住してよかったことは？
子どもが楽しそうにしていることです。小学5年生の長男が、大阪の大人数のクラスにはあまりなじめていなかっただけです。でもここに来て、近所の子がうちに遊びに来てくれたり、すぐそこに川や山があって、こちらが何か道具を渡さなくても、自然の木や石などで楽しそうに遊んでいますね。空気もきれいで騒音もなく、穏やかに暮らしています。



Q どうして川上村に決められたのですか？
川上村主催の仕事と住まいを紹介する「川上三ツアール」に参加したことで職と住居が見つかりました。小学校や周りの環境なども役場の方に案内してもらえ、具体的に見て回れたことが大きかったですね。せつかくここに来るなら、サラリーマンではなく、自分の手で地場産業に関われることをとっていたので、割箸職人の方との出会いも後押しになりました。

Q ご近所との関係はいかがですか？
まだ移住したばかりなので、毎日どうしたらいいかわからないことだらけなんです。周りのみなさんにアドバイスをもらっています。近くに移住者の家族が2組お住まいなので、村とのつながりを作っていたり。川上村の人々は本当に子どもに優しく、安心して子育てができています。

**菅義浩さん・直子さん
菅人くん・永人くん
▶大阪府→川上村**
子育てに良い環境を求めて川上村に移住。現在は師匠のもとで割箸作り
の修業をしながら、住居の隣にあった事務所スペースを自身の工房に整備中。
住まいは、目の前に川が流れ、山が見渡せる抜群のロケーション。「朝起きた時、あ〜朝1って感じがする」と直子さん。都会では味わえなかった感覚が新鮮だそう。
(撮影時、永人くんは小学校)

お金を代えられない大切なものを求めて。
きっかけは、とあるテレビ番組だった。奈良県南部の過疎化の現状や移住者誘致に関する動きを知り、興味を持った直子さんが情報収集を始める。子どもの成長と

共に、都会に住み続けることへの疑問が湧いてきていた時だったという。半年ほどリサーチを重ね、川上村に移住することが決定。義浩さんはサラリーマンから割箸職人への転向を目指し、ゼロからのスタートだが、家族と過ごす時間が増え、プラスになったこと



奈良の自然と歴史に包まれるのびのびと暮らす家族。

田舎で子育てをしたいと考える人は多いが、やはり気になるのが職と住居。探す過程は大変なことも多いかもしれない。でも、最初の足がかりさえつかめれば、家族みんなで新生活を作り上げていくことで、より絆が深まることは必至。ここでは、仕事に夢を抱きつつ、仲良く生活を楽しむことを大切にしている家族を2組ご紹介します。



穏やかな夫妻と人懐っこい姉弟の欠瀬さん一家はご近所さんからも愛される存在

**好きな環境と仕事を
選び、家族も幸せに。**

歴史に興味があり、明日香村が大好きで何度も訪れていたという隆典さん。いつか住みたいと思っていたところ、チャレンジショップASUCOME(あすかむ)のオープンを知る。これを機に、明日香村へ移住を決意。約1年の営業を経て、現在は自宅スペースに移転リニューアルした。2人のお子さんも元気がいっぱい。活発な紗那ちゃんに対して「この子に東京は狭かったですね」と隆典さん。海外からの飛鳥ホームステイの受け入れにも協力するなど、一家で明日香村での生活を満喫中だ。

Q 家探しはどのようにされましたか？
空き家バンクで探しましたが、すぐに住める状態のものがなく、隣の橿原市のマンションに決めかけていました。しかし、やはり明日香村にある現在の家を選び、補助金も利用して住みながらリフォームしました。向かいにお産の神様・産の宮さんが祀られていて、ヒコナのお客様には妊婦さんや産後の方も多いため、見守っていただいているようで心強いです。



石舞台古墳のある飛鳥歴史公園には、家族でよく遊びに来るそう

Q 明日香村の住み心地はいかがですか？
隆典さん・遺跡があり、歴史と一緒にある明日香村の環境はやっぱりいいですね。

Q 仕事面は順調でしたか？
チャレンジショップから始めたので、費用面のサポートはもちろんです。広く認知してもらえたのがよかったです。そのおかげで現在は、橿原ロイヤルホテルのマッサージ師として専属契約もしています。医療としての鍼灸マッサージの必要性や、介護分野との連携など、まだまだ認識されていない部分もあるので、地道に伝えていきたいと考えています。



古民家を改装した自宅の一角に施術ルームがあり、ゆったり流れる時間の中でリラックスできる

**欠瀬隆典さん・美江さん・紗那ちゃん・睦人くん
▶東京都→明日香村**
鍼灸師の隆典さんと整体師の美江さん。東京で自宅サロンを開いていたが、明日香村のチャレンジショップに移転すると同時に移住。
SHOP
●ヒコナ鍼灸院／ヒーリングサロン
隆典さんが鍼灸・マッサージ、美江さんが整体やフットケアなど担当。特に美江さん自身の体験をふまえた産前産後のケアに定評あり。
☎0120-543-378
〒高市郡明日香村岡1200-1 開10時～17時 休月・日祝

自分の店やアトリエ、 広がる無限のフィールド。

「見何もないようである、実はポテンシャルの高い田舎。キレイな水、空気、景色、そこから得られるインスピレーション。これらを豊かなものだと感じ、自分のスペースを開く人々。空き家や地域の食材など、活用できるものもたくさんあり、自分の思いをカタチにできる可能性が広がっています。」

昔の建具をいかしつつ改修。地元の人と街から来た人が混じり合う空間に

コーヒーは、かるやか、しっかり、月替りの3種。フレッシュにもこだわりあり



釣りや猟が趣味というフィールドな面を持ち合わせるお2人



「コーヒーがおいしくて、ゆっくりできる場所に」シンプルさが心地いい

今やりたいことを
気に入った場所で。

カフェを開きたい郁子さんと、広い仕事場を確保したい崇さんの求めるものが一致し、曾爾村に移住した前川さん夫妻。村にカフェがなかったこと、山の麓のロケーションが決め手となり、古民家をお店兼住まいに改修した。崇さんはフリーランスの編集者で、生き方もフレキシブル。「都市部では短期の定住は当たり前。地方でも色々な定住の形があってもいいのでは？」ライフステージに合わせた移住スタイルを実践中だ。

Q 移住してよかったことは？

郁子さん「お店が開けたこと！崇さん「鮎釣りがすぐできることかな？」

Q 大変だったことは？
自然の中に暮らすにはエネルギーが必要！生活費も、安く買ったのは家賃だけです(笑)。でも、私たちは理想だけを求めて来ていないので問題ないですね。当初は地域の慣習にとまどうことが多く、移住者と地元との間には行政のフォローが必要だと思えます。今はワンストップ窓口ができてスムーズになったようですね。

前川さん・郁子さん
▶奈良市→曾爾村

曾爾村に移住して6年目。郁子さんは、最初の2年間は青少年自然の家でパートで働き、地域になじんでからカフェをオープンした。

SHOP
●cafe necoron
急な坂道をのぼったところがあり、開放感のある古民家カフェ。コーヒー、紅茶とマフィンがメインで、土日限定のランチも。
☎090-1319-8434
〒宇陀郡曾爾村葛288
☎11時～17時30分
※金土日祝のみ営業

原点に戻ったら見えた
本当に表現したいこと。

造花を使ってプライダルや店舗装飾などを手がける山田さん。大阪のインテリアショップ勤務時に始めた造花のアレンジが、クチコミで広がり、造花アーティストとして独立。アトリエに選んだ場所は、生まれ故郷の邸宅だった。「一人ひとりのお客様に費やす時間を、たくさん取れることが幸せだな」と。当初は少なかつた来店者も、地道に発信を重ねることで、今では予約待ちの人気の。表現の幅は広がるばかりだ。

Q 地元に戻って改めて感じたことはありますか？

「どんどん野生化しています(笑)。生物的感觉が戻ってきたというか。溢れる色彩が目の前にあるので製作はやりやすいし、ここが原点なんだなって改めて思います。」

Q 奈良に移住を考えている人にコメントをお願いします。

田舎ってまっさらなんです。自分でアクションを起こしさえすれば何でもできる。その自由さをもっと楽しめる人が増えたらいいなと思います。田舎に来るだけで視点が変わりますよ。」

山田夏子さん
▶宇陀市 Uターン

造花アーティストとして独立する際、新たなスタートを切るため実家をアトリエに。今後は広大な庭を利用したイベント事業も企画中。

SHOP
●虫花風 mukapu
買い付けてきた造花や、自分でイチから生み出した造花を、さまざまなシーンに合わせて提案。じっくり話をし、目の前で完成させるのが虫花風スタイル。
☎090-1148-7255
〒宇陀市大宇陀 西山993-2 園10時～20時 休不定 ※来店要予約。
2016/6/30まではプライダル来店(要相談)&メールオーダーのみ

アクセサリから大きなディスプレイまで、イメージを立体に表現する



花が咲き乱れる春～秋に訪れて宇陀の自然を感じてみて



自身の結婚式も実験的に庭でセルフプロデュースした

まっすぐな情熱を
傾けられる場所へ。

高校時代から奈良県の環境の良さに惹かれ、いつか住みたいと淡い夢を抱いていた工藤さん。脱サラしてパン職人になり、まずは地元・東大阪市で5年店を営んだ後、夢を叶えるべく大淀町へ。「パンの品質をもっと突き詰めたい、食材の産地に近い場所でありたい、という思いが強くなり決意しました。早速、農家さんや町おこしに熱意のある方々と知り合え、手応えを感じています」と、着々と前進中だ。

基本的に拓さんがお店に立ち、裕子さんはパートの仕事で交流の輪を広げる



工藤拓さん・裕子さん
▶大阪府→大淀町

安心安全なパンを提供し続けるため、自然豊かな大淀町へ。町おこしやマルシェにも参加し、都会とは違う刺激的な日々を送っている。

SHOP
●Bakery TAKU
見晴らしのいい花吉野ガーデンヒルズに、2015年8月オープン。土地に根差した店を目指し、大淀町特産の番茶や梨を使ったパンも積極的に開発する。
☎0747-55-4646
〒吉野郡大淀町福神1-111
☎10時～17時 ※売り切れ次第終了 毎月・火

Q 奈良に移住を考えている人にコメントをお願いします。
吉野と聞くと遠く感じるかもしれませんが、大阪から車で1時間ほど。選択肢を広げるためにもまずは知ることを、そして前向きな気持ちが必要ですね！

Q 家探しはどのようにされましたか？
奈良県中南部に絞り、不動産屋さんを訪れて、1年半ほど見て回りました。大淀町のまちの雰囲気や景色を気に入り、お客様にも来てもらいやすい場所なので、ここに決めました。

主食の1つであるパンだから、お客様の健康を考えて素材を選び、仕込みに手間をかけて価格を抑える



南向きのデッキからは吉野川と山並みが見渡せ、心が澄み渡るよう

テーブルと床板に温かみのある吉野杉を使ったダイニングで食事や読書を



吉野町 Guest House

**地域を知るための
トライアル移住。**
ゲストハウスなどにステイして、段階的に移住を体験するのもオススメ。地元とのつながりを感じられる地域密着型のスペースなら、よりイメージが湧きそう。



**昭和初期の料亭旅館が
暮らし体験スペースに。**

吉野町上市は、古くは伊勢街道筋の宿場町として栄え、今も昔ながらの町並みが残る味わいのあるまち。その中で、木材を運搬する筏師や旅人の宿として利用されてきた三奇楼が、昨年、ゲストハウス・移住体験スペースとして生まれ変わった。改修を手がけたのは、地元南工務店。2代目の南達人さんが、吉野のまちを元気にしたいと、地元有志



昔の写真や調度品などがさりげなく

「上市まちづくりの会りタインズ」を立ち上げ、地域のひと町外の人をつなげる拠点となる三奇楼をオープン。吉野川に面した展望デッキを復活させ、吉野材でお風呂を作ったり、吉野の手漉き和紙で障子を作り替えるなど、吉野の良さを存分に感じてもらえる空間が完成した。

「原点は、20代の頃に仲間と活動した上生まれも育ちも吉野山という大矢さん。20歳の頃、先輩の店を手伝ったことをきっかけに、お客様に喜んでもらえる商売に魅力を感じ、店を開くことを決意。選んだ道は、吉野の美しい水をはかせる「そば」。信州のそば処・戸隠で5年半修業を積んだ後、故郷に念願の店をオープンした。「吉野山の良さを、お客様に知ってもらうきっかけになれば」。観光地・吉野山の未来を支える世代の1人として奮闘中だ。



古き良き日本家屋のアプローチ

市まちづくりの会。地域の工務店として、吉野を盛り上げたいという熱い気持ちはその頃から変わっていません。今回、三奇楼という建物に出会い、このプロジェクトが始動。地域の方々とのご縁を大切に、吉野のことを好きになる人を増やしていきたい」と

**●ゲストハウス・移住体験スペース
三奇楼SANKIROU**

立派な蔵やかまどなどが残る風情ある建物。玄関先での朝市など、地域の方々も参加できるイベントも不定期で開催している。

☎0746-39-9207 園吉野郡吉野町上市207 ㊟通常素泊まりプラン…1室2名様以上で利用:1人4,000円、1室1名様で利用:1人5,000円、1棟全室(デッキ含む)利用:40,000円 + 人数×500円
※オンシーズンは別料金。詳細はHPをご覧ください
※日帰りプランもあります

【施設概要】

1F 客室(10畳/6畳)、談話室、キッチン、ダイニング、洗面所、バストイレ
2F 客室(8.5畳/6畳)、展望デッキ



蔵から出てきた家具が配置され、懐かしい雰囲気包まれる客室



オーナー

南工務店社長の南達人さん。「歴史があり、川の流れに心落ち着く吉野のまち。三奇楼がきっかけで定住する人が増えたらと願っています」。



管理人

3年前に地域おこし協力隊で吉野に来た渡邊さん。「自然豊かな吉野の風景のそばで、ゆるやかに人がつながるお手伝いをしたいです」。

**仕事も暮らしも
人づきあひも楽しむ。**

長い間、民宿タッサンを切り盛りしてきたおばあさんが高齢になり、昨年、宿を閉める話が持ち上がった。そこで、孫の由妃さんが引き継ぐことに。「子どもの頃からずっと見てきたので、なくなるのはさみしいなと。おばあちゃんも、残せたことを喜んでくれています」。柔道整復師であるご主人の悠揮さんも、移住を機に独立開業。すぐに村の暮らしにもなじみ、三世帯同居を楽しんでいるそうだ。

Q Uターンしてよかったことは？

人との関わりです。移住当初あまり話さなかった息子が、村の人や家族が話しかけてくれるのでよくしゃべるようになり、子どものためにもよかったです。

Q 村の暮らしについて一言。

由妃さん「…いつか自営業をしたいと思ってたので毎日がすごく楽しいです。子どもの数は少ないですが、皆で色々なイベントを企画して楽しんでいます。悠揮さん…お祭りや餅つきなど地域の行事が面白いです」。

**北岡悠揮さん・由妃さん・龍ノ助くん
▶上北山村 Uターン**

結婚当初は予想していなかったが、由妃さんが実家の民宿を継ぐことになり移住。悠揮さんが独立開業を考えていたことも契機に。

SHOP

●民宿タッサン
R169沿いの黄色の壁が目印。目の前に川が流れ、川遊びやBBQが楽しめる。大台ヶ原の駐車場まで車で約50分。登山客にもオススメ。
☎07468-2-0171
園吉野郡上北山村大字河合666-7
※詳細は上北山村商工会HPをご覧ください



民宿と同じ敷地内に「上北山接骨院」を開院。骨、関節、筋などの痛みを治療している



**吉野山の財産を大切に
お客様をもてなす。**

生まれも育ちも吉野山という大矢さん。20歳の頃、先輩の店を手伝ったことをきっかけに、お客様に喜んでもらえる商売に魅力を感じ、店を開くことを決意。選んだ道は、吉野の美しい水をはかせる「そば」。信州のそば処・戸隠で5年半修業を積んだ後、故郷に念願の店をオープンした。「吉野山の良さを、お客様に知ってもらうきっかけになれば」。観光地・吉野山の未来を支える世代の1人として奮闘中だ。

Q すぐにお店の物件は見つかりましたか？

帰って来た当初は子どもが生まれたばかりだったこともあり、物件を探しつつ、飲食店や老人ホームなどで働く日々でした。先輩に

戸隠へのリスペクトを込めて、特徴的な「ぼっち盛り」を取り入れている



**大矢貴司さん
▶吉野町 Uターン**

戸隠でのそば修業を経て、故郷に店をオープン。戸隠と吉野はどちらも修験道の歴史の深い地。縁を大切に、吉野山を盛り上げる。

SHOP

●矢的庵
八ヶ岳産そば粉100%と吉野山の名水で手打ち。天ぷらには吉野山の旬の野菜や山菜を。吉野建ての古民家でゆっくり味わえる。
☎090-2478-5834
園吉野郡吉野町吉野山3396 ㊟11時~17時
※売り切れ次第終了
※不定(観桜期無休)

ご両親と奥様、3人の娘さんと実家に暮らす。地域のコミュニティを大事にしている



Q 吉野の外へ出てみて、感じたことはありましたか？
戸隠で「吉野から来た」と言うと、花、葛、吉野杉と名物を挙げられ、自分が思っている以上に知られていることがうれしかったです。一度出たことで、吉野山の良さを見つめ直すことができました。

ここを使っていると、言われ、不安もありましたがトライしました。



急な坂道が続くこのエリアは、吉野建ての古民家を利用した店が連なり、吉野らしい風景が楽しめる